

めぐみの学校の子

恵田小 校長室だより
平成三十一年四月十五日

No. 125

49名の恵田っ子とともに

自立の花壇のチューリップや、道路沿いの桜は、今年はずいぶん長い期間花を咲かせた。桜は、葉桜に変わりつつある。風に吹かれ、桜吹雪が美しく舞っている。気温が大きく関係していることを、今年のチューリップや桜から感じる。今年度は登校指導に向かう道のがけに、わらびはまだ顔を出していない。



平成31年度が始まって1週間、恵田っ子49名が一日一日を充実させている。金曜日には1年生の給食が始まり、清掃も始まった。いよいよ本格的に恵田小学校がスタートする。

今年度は「めぐみの和」をテーマに学校運営を進める。恵田小・恵田学区の和、平成と新時代「令和」、恵田の「ひと・こと・もの」の恵みと恵田小の活動との融和を目指す。これは、今年度の重点目標である。校訓「自立」や、恵田小の伝統的な活動に基づく目標については、これまでどおり、きっちりと、形だけにならないように気をつけて進めたい。

49名の恵田っ子と恵田小教職員、そして、保護者の皆さん、学区の皆さんと、今年度も手を携えてよりよい、魅力ある恵田小づくりを進めたい。そうすることで、恵田っ子、教職員、保護者・地域の皆さん一人一人の充実につながると思う。今年度も「めぐみの学校」づくりに取り組んでいく。



恵田っ子へ

十七音（じゅうしちおん）で

恵田（えた）っ子（こ）の俳句（はいく）をさらによいものにするため、今年（ことし）は俳句づくりの用紙（ようし）に新（あたらし）しくチェックするとよいことを加（くわ）えました。

一（ひと）つは、季語（きご）きせつをあらわすことばを一つにすることです。二（ふた）つめは、「うれしい、たのしい、かなしい」など、気持（きもち）ちをあらわすことばをいれないことです。

春（はる）の朝（あさ） さくらふぶきの

通学路（つうがくろ）

こんな俳句をつくったとします。「春の朝」と「さくらふぶき」二つの季語があります。どちらかにしぼりましょう。

さくら咲（さき）く兄（あに）と手（て）つなぐ
うれしいな

この俳句では、「うれしいな」ということばが入（はい）っています。「うれしいな」のかわりに、五音（ごおん）使（つか）って様子（ようす）を入（い）れるとよいです。

十七音を大切（たいせつ）に使（つか）いましょう。